

平成27年度研究成果中間報告書《平成27年度指定教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道	研究課題番号・校種名	3(4)小学校
				領域名	E S D
研究課題	学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究 (4) E S Dを学校全体で体系的に推進するために、各教科等の連携により、持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を児童生徒に身に付けさせるための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名 (児童・生徒数)	いしかりしりつおやふるしょうがっこう (児童数62人)				
所在地 (電話番号)	北海道石狩市生振375番地1 (0133-64-2018)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.fureai-cloud.jp/oyafuru/				
研究のキーワード	「E S Dカレンダーで関連を図った各教科等の指導計画」「教科横断的な学習」「E S Dで育てたい力の明確化」「E S Dの視点を踏まえた評価規準の設定」				
研究成果のポイント	○E S Dカレンダーで関連を図った各教科等の指導計画の作成 ○国立教育政策研究所の「E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」を踏まえた低・中・高学年ごとのE S Dで育てたい力に係る評価規準の設定 ○E S Dで育てたい力に係る評価規準の具体化を図った単元(題材)の評価規準の設定と学習指導案への位置付け				

1 研究主題等

(1) 研究主題

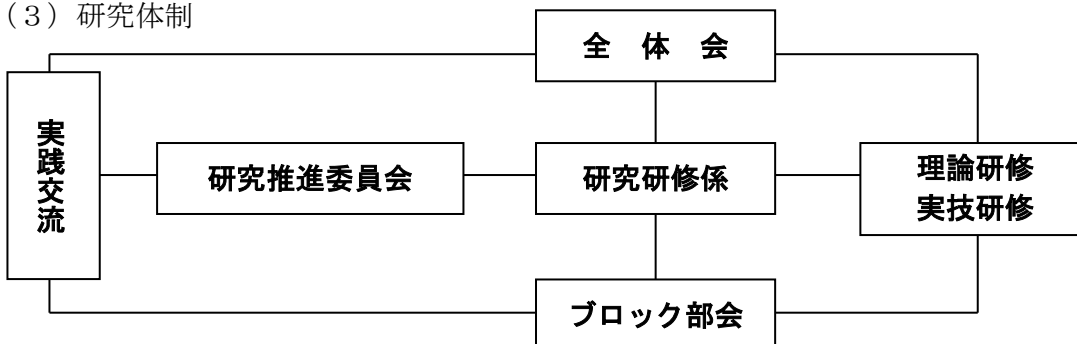
ユネスコスクールとして地域に根ざした体験的活動を基軸とするE S Dの探究
 ～ふるさとでの学びを発信できる子供の育成を目指して～

(2) 研究主題設定の理由

本校では年2回、独自の「生活アンケート」を児童対象に実施しており、その結果、自己肯定感が低い傾向が見られたことから、主体的に問題を解決したり、他者と協力して課題を追究したりすることができる学習を充実することにより、自尊心を高める必要があると考えた。そのような観点から、これまでも他者との関わりを大切にしながら体験的な学習を重視してきたが、いわゆる「活動あって学びなし」というような活動主義に終始していないかという視点で、取組の見直しを図ることとした。

そこで、本校が農業地域に位置し、「みそ作り」や「藁草履作り」といった地域の活動が盛んであることから、これらの地域の教育的資源を活用した体験的な学習を充実することにより、自尊心を高めることができると考えた。また、E S Dの視点を明確にした教科横断的な学習により、本校が目指す「主体的に活動し、実践する態度」や「未来を想像し、考える力」が身に付き、自己肯定感が高まると考え、本主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組

平成27年度	4月・全体会「研究内容の確認，研究体制の確立」 5月・全体会「学級経営交流会」 6月・全体会「E S Dカレンダー作成，学習指導案について」 ・理論研修 講話「ユネスコスクールとE S D」 講師：大津 和子 氏（北海道教育大学副学長，日本ユネスコ国内委員） 7月・全体会「校内授業研修（1年生活科『なつだ あそぼう』）」 ・全体会「評価規準，自己評価カードについて」 8月・ブロック部会「授業研修（5年国語科『しょうかいポスターを作ろう』）」 ・全体会「E S Dカレンダー第一次完成，指導計画の作成について」 ・ブロック部会「授業研修（3年道徳『いいち，にいつ，いいち，にいつ』）」 9月・ブロック部会「授業研修（2年算数科『水のりょう』）」 ・全体会「全校授業研修①指導案検討」 ※国立政策研究所教育課程調査官指導助言 ・ブロック部会「授業研修（4年総合的な学習の時間『福祉について考えよう』）」 10月・全体会「全校授業研修①（3年国語科『生き物のとくちょうをくらべて書こう』）」 11月・全体会「全校授業研修②指導案検討」 12月・研究発表会「全校授業研修②（6年総合的な学習の時間『わたしたちのE S D』）」 1月・全体会「研究のまとめ，研究協議会資料について」 2月・国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業研究協議会に2名参加 3月・国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業連絡協議会に2名参加
--------	--

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

〈学びと学びをつなぐ〉

- E S Dカレンダーの見直しを行い，各教科等における単元のつながりを明確にする。
- E S Dカレンダーで関連を図った各教科等の年間指導計画やその単元（題材）の指導計画を作成する。
- E S Dで育てたい力を見取る評価規準を設定し，指導と評価の一体化が図られるように学習指導案に明記する。
- 児童の主体的な学びとなるような学習のプロセスを重視した授業を構築する。

〈子供と子供をつなぐ〉

- 異学年交流による体験的な学習を重視し，学校田活動，世界寺子屋運動（ユネスコファーム活動など），追究学習（教科横断的な学習）などを計画的に位置付ける。
- 自他のよさに気付くことができるように，自分の意見を発表したり，感想を交流したりする場面を意図的に設ける。

〈子供と地域をつなぐ〉

- 地域の教育資源を有効に活用できるように，人材等の発掘及びリスト化を図る。
- 学校田活動，世界寺子屋運動（ユネスコファーム活動など），追究学習（教科横断的な学習）などを通して，学んだことを身近な人に広める発表の場を設定する。

〈子供と未来をつなぐ〉

- よりよい未来を実現するために，自分ができることを考えさせたり，考えたことを具体的に行動させる機会を設けたりする。

(2) 具体的な研究活動

① ESDカレンダーで関連を図った総合的な学習の時間の年間指導計画 (例 第6学年)

[第6学年ESDカレンダー]

教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
理科	物の見え方と空気	植物の体				土地のつくりと変化 地しんや火山と災害		月と太陽	電流による発熱	電気の利用		生き物とかんきょう
総合	<p>学校田活動 もみまき・田植え・観察・稲刈り・もちつき大会</p> <p>クリーン作戦</p> <p>わたしたちのESD 世界寺子屋運動・パンフレット作り・書き損じハガキ集め・ユネスコについて学ぼう・衣料品回収</p> <p>ユネスコファーム活動 ユネスコファーム会議・苗を植える・水やり・雑草取り・成長観察・旗作り・収穫・販売・発表準備・発表交流</p> <p>生振の里交流</p> <p>パソコンで文章作り</p>											

[総合的な学習の時間 第6学年 年間指導計画]

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
<p>ユネスコファーム活動 ○ねらい ・自然体験を通して、豊かな感受性を育てる。 ・協力・分担・奉仕の態度を育てると共に収穫の喜びを感じ、ユネスコの取り組み、世界寺子屋運動に校研する豊かな心を育てる。 【活動内容】 ・ユネスコファーム会議でユネスコについて知り、植える野菜を決める。 ・畑の先生に野菜の植え方を聞き、植える。 ・野菜の水やり、雑草取りをし、成長観察をする。 ・ユネスコファームの販売を知らせる旗を作る。 ・野菜を収穫し、販売する。 ・活動してきたことを新聞にまとめ発表する。</p>								
<p>学校田活動 ○ねらい ・地域に根ざしたESD実践において、自然体験を通して、ゆたかな感受性を育てる。 ・協力・分担・奉仕の態度を育てるとともに、教えていただいた方々への感謝の気持ちを育てる。 ・時と場をわかまえ、礼儀正しく、真心をもって人と接する。 【活動内容】 ・もみまき、田植え、稲刈り、もちつきを通して、稲の生長観察し、記録する。 ・もみから稲、餅米に変化していく様子から食するまでに長い時間がかかることや餅つきができることの喜びを味わう。</p>								
<p>修学旅行 ○ねらい 見学の行程について、調べ学習を行い、見学への見通しを持つ。 【活動内容】 見学先について調べ学習を行う。</p>								
<p>生振の里交流 ○ねらい ・社会体験を通し、ゆたかな感受性を育てる。 ・生振の里との交流を通し、よく知り合い、互いに人としての心情を深める。 ・時と場をわかまえ、礼儀正しく、真心をもって人と接する。 【活動内容】 ・生振の里の人たちと一緒にできるゲームを考えて交流をする。</p>								
<p>クリーン作戦 ○ねらい ・レインボー班の協力・分担・奉仕の態度を育て、生振の里との交流を通し、良く知り合い、互いに人としての心情を深める。 【活動内容】 ・レインボー班で役割を分担し、生振の里の方と一緒に学校周辺の清掃活動をする。</p>								
<p>わたしたちのESD ○ねらい ・地域に根ざしたESD実践において、ゆたかな感受性を育てる。 ・協力・分担・奉仕の態度を育てる。 【活動内容】 ・世界寺子屋運動として、書き損じはがき集める呼びかけ、回収を行う。 ・ユネスコファームの活動を世界寺子屋運動の一環としてらえリーダーシップを取り行動する。 ・寺子屋運動やユニクロの衣料品回収において、宣伝活動を行う。 ・ユニクロの衣料品回収に参加する。 ・寺子屋運動を通し、分かったことを発表し、交流する。</p>								
<p>パソコンで文章作り ○ねらい ・パソコンを使って、自分たちの活動内容をまとめたりお便りを作成し活動と呼びかけたりすることで、ESD実践の考え方をよりを深める。 【活動内容】 ・インターネットを使って、調べ学習をする。 ・パワーポイントなどを使って調べたことをまとめる。 ・自分たちの活動のお便りを作成しはがき集めや洋服集めを呼びかける。</p>								

「ESDカレンダー」で示す学びのつながりを踏まえ、総合的な学習の時間の年間指導計画を作成した。

② ESDの視点に立った指導案

[本時の展開]

	学習活動	○教師のかかわり ●留意点		ESDで育てたい力 ◆評価の観点
		T 1	T 2	
導入	1. 前時までの振り返り 本時のめあて 課 発表を聞いて共通点を見つけ、これから自分に何ができるか考えよう。	○課題を提示する。	○本時の学習のESDを提示する。	・いろいろなことがつながっていることに気づくことができる。⑥
展開	2. 発表を聞いて共通点を見つけよう (話し手) ・自分の調べたことを他者に通じるように表現する。(聞き手) ・話し手の話に反応しながら聞く。 ・共通点や感想を付せんに書く。	●ESDの視点(本校で設定している「ESDで育てたい力」)を学習指導案に明記した。 ●単語でよいので、共通点を見つけたら書くよう助言する。	○話し手、聞き手のポイントについて確認を行う。	◆自分たちの発表を工夫して伝えようとしている。 ・自分に出来ることを考え、未来について発信することができる。⑦

③本校のESDで育てたい力（7点）

本校のESDで育てたい力	国立教育政策研究所 ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度 (例)
<ul style="list-style-type: none"> ・課題を見つける力 ・課題解決に向かう態度 ・計画力, 思考力 ・力を合わせ、発信する力 ・他者を理解し、自己を受け入れる態度 ・主体的に活動し、実践する態度 ・未来を想像し、考える力 	<ul style="list-style-type: none"> ①批判的に考える力 ②未来像を予測して計画を立てる力 ③多面的、総合的に考える力 ④コミュニケーションを行う力 ⑤他者と協力する態度 ⑥つながりを尊重する態度 ⑦進んで参加する態度

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- ESDカレンダーで関連を図った各教科等の年間指導計画や各単元（題材）の指導計画を作成することにより、ESDの視点による「学びのつながり」が明確になり、効果的に教科横断的な学習を進めることができた。
- 国立教育政策研究所の示す「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」を基に、低・中・高学年ごとにESDを通して身に付けさせたい力に係る評価規準を作成したことにより、6年間を見通した系統的なカリキュラムを構築することができた。
- ESDで育てたい力を見取る具体的な評価規準を設定し、学習指導案に位置付けたことで、児童の学習状況を適切に見取り、指導と評価の一体化が図られるようになった。

(2) 課題

- 学習指導要領改訂を見据え、ESDカレンダーをはじめとする各指導計画を見直す必要がある。（ESDカレンダーについて、各学年の学習内容ではなく、育てたい資質・能力の関連性からつないでいくことの検討。）
- 児童の主体的な学習が一層推進されるように、効果的な教育手法に係る校内研修を進める必要がある。
- 6年間を見通した系統的な学習が一層充実するよう、児童の学習状況の評価を踏まえ、学習内容や学習方法の見直しを図る必要がある。（ふりかえりカードの改善と活用方法の検討。）

(3) 2年目へ向けての取組

- 「主体的に活動し、実践する態度」や「未来を想像し、考える力」の育成を一層推進するため、体験的な学習を軸とした教科横断的な学習が充実するよう、指導計画を見直すとともに、効果的な指導方法等に係る校内研修を実施する。（課題を見出す視点6つとESDで育てたい力の関連付けを検討）
- 設定したESDに係る評価規準に基づく子供の学習状況の見取りを生かし、6年間を見通したカリキュラムや一単位時間の授業のプロセスの改善を図る。（指導案段階で、教科の目標とESDで育てたい力をどのように関連させ、位置付けていくかを検討）